

「中学生死亡事件に係る教育委員会事務局検証委員会 中間取りまとめ」概要

川崎市教育委員会

◎「Ⅰ 事実関係の把握」及び「Ⅱ 検証と考察」については、プライバシーに配慮し非公開または一部抜粋、要約した内容となっています。

◎「Ⅱ 検証と考察」のポイント

今回の「中間とりまとめ」では、学校体制・生徒の関わりに関することと、学校と教育委員会との関わり方を中心に検証を進めてきました。その他の部分については、最終報告の中で取り扱っていく予定です。

○当該中学校は、日頃より生徒指導体制の充実に努め、指導事項や指導方法の共通認識を持ちつつ、情報の共有化を図るための方策を徹底しており、本事案においても、できる限り共通認識を持ってAさんへの関わりに努めていた。

○しかし、検証の中で、特に次のようなことが、改善すべき課題として浮かび上がってきた。(P.10 参照)

◇当該校における課題

- ・ Aさん、保護者に直接会うことができていない状況が続いていた中、学校としてできる限りの働きかけをしたが、Aさんの交友関係や思いを理解するには至らず、今回の事件につながるというような危機感を持てなかった。
- ・ 不登校生徒への対応について、情報交換と情報共有を行いつつ、電話連絡や家庭訪問を中心に働きかけていたものの、従来の方法では限界があった。今後、個々の状況に合わせた柔軟な方策を、組織的に検討するなどの取組が必要である。
- ・ スマートフォンの普及や SNS の発達等によって、生徒たちの交友関係が大人からは見えにくく、また生徒たちの思いや持っている情報等が大人たちに伝わりにくくなっている状況もあり、特に校外での遊びグループと関わりのある生徒への対応について、その関係を見出せなかったり、関係に応じた指導や支援が、十分に進められなかったこと。

◇教育委員会における課題

教育委員会としても、SSW の積極活用や外部機関との連携への支援、また児童生徒の出欠状況の把握と状況改善に向けた学校への支援を十分に講じていなかったことを、改善すべき課題として認識している。(裏面へ)

◎「Ⅲ 再発防止に関して」より

1. 教育委員会としての取組 (P11 参照)

- (1) ダイヤル SOS の開設 (3 月 9 日)
- (2) 市独自の長期欠席者に関する調査の結果に基づいた学校支援策の実施
 - ・各学校の生徒の欠席状況と不登校生徒の個々の状況を公務支援システムを活用して簡易に調査・集計できるようにし、その結果を区教育担当と共有することにより、学校の実態に応じた支援を実施 (4 月より)
- (3) 再発防止に向けた事務局組織体制の強化 (4 月 1 日より)
 - ① 学校支援等の総合調整担当の配置
 - ② 指導課組織体制強化
 - ③ 区の実態に応じた支援体制の強化
- (4) 全市的な中学校の生徒指導体制の見直し
- (5) スマートフォン、SNS 等の適切な利活用に関する保護者や生徒へのさらなる啓発

2. 学校に求める取組 (P12 参照)

- (1) 各学校の指導体制の点検・強化と教育活動の改善・充実
 - <点検の観点>
 - ① 児童生徒一人一人の学校内外での状況を、できる限り広く把握するよう努めているか。
 - ② 得られた情報の整理と的確な分析・考察を行い、それを元にした対応体制の構築がなされているか。
 - ③ 校内児童生徒指導体制が硬直化していないか
 - ④ SNS など、インターネットやスマートフォンの適切な使用についての指導は実効的な効果を上げているか
 - ⑤ 生命尊重、人権尊重教育の充実が図られているか。
 - ⑥ 不登校・長期欠席者への対応が組織的に柔軟に進められているか。
- (2) 校内職員研修の充実

3. 関係局区との連携推進

4. 警察との情報連携の推進